

# 3 学年理数科学科 SS 発展探究発表会報告

◇期 日:令和3年6月23日(水) 5・6限

◇場 所:至誠ホール

◇発表者:3年理数科学科生徒58名

◇参加者:3年人文社会科学科生徒23名、富山県国際交流員、  
県内の CIR および国際交流に従事されている方々、  
本校各教科教員

3年間の探究活動の集大成である SS 発展探究発表会が行われた。今回の SS 発展探究発表会は、富山県国際交流員や富山国際センター相談員など、日本語を母語としない方々8名を外部評価者としてお招きし、一昨年までと同様、発表から質疑応答に至るまで、全て英語で行われた。

私たちは、英語のポスターや原稿、要旨、そしてキーワードリストをこの発表会に向けて準備してきた。これまでも探究科学科の生徒として様々な経験を積んできたが、このような英語だけで難しい内容を伝える経験をしたことがなく、発表までの過程は困難の連続であった。しかし、どの班も、班員それぞれが得意分野を活かして積極的に取り組み、分担しながら作業を進めてきた。また、内容を少しでもわかりやすく伝えられるように一生懸命練習してきた。

発表当日は緊張感をもって、発表を成功させることに集中した。各班の発表が始まった後は、仲間の発表を心から楽しんで、理解しようと努めた。また、自分が発表しているときには、声のボリュームやアクセントを工夫することで、少しでも相手が理解しやすいように気を巡らせた。質疑応答の際には、聞き取ることに苦勞することがあっても、英語でできるだけ分かりやすく答えた。高度な英語表現を用いた質問を何度もされ、質問内容がよくわからなくなってしまうこともあったが、英語を聞き取るのが得意な仲間に助けられ、協力しながら質問に答えることができた。このことから、仲間と協力することの大切さを身にしみて感じた。全ての発表を終えた後、自信と達成感が得られた。

今回の発表会で、ほとんどの人は課題研究をひとまず終えることになる。昨年6月に新型コロナウイルス感染症の流行による休校期間が明けて、研究することの難しさに頭を悩ませながら始まった私たちの課題研究——。この1年以上にわたる課題研究を通して、私たちは難しいことを考え抜く思考力やそれらを伝える表現力を身に付けることができたと思う。また、仲間と協力して実験や情報収集に励む中で、仲間同士でコミュニケーションを円滑にとりながら活動することの大切さを実感できた。今後は探究活動によって得られた経験を学業だけでなく、日々の生活に生かしていきたいと思う。

最後に、休日も出勤して探究活動を支えてくださった先生方、そして急に予定を入れても嫌がらずに協力してくれた家族や仲間たちへの感謝の気持ちを記して報告を終えたい。

(37H 高田 記)

